

小竹人のお魚事情ーその1ー

富山県埋蔵文化財センター

小竹貝塚の発掘調査では遺跡を掘った貝層や土の大部分を土嚢袋に入れて持ち帰りました。これらを専用の機械や目の細かいフルイなどを使って土ごと水洗い（土壌洗浄）し、フルイに残った遺物を回収する作業を1年かけて行いました。洗った土嚢袋の数は8万4,253袋にもものぼります。



掘り出した土嚢袋が山のよう！



水と泥にまみれてひたすら洗います。

さらに回収した遺物の中から微小な遺物を選別する作業を1年かけて行いました。この第2の発掘ともいえる作業の結果、小さな石器類や魚骨を含む動物骨、植物の種子など、数多くの発見がありました。



洗浄後、残った遺物。このまま乾燥へ。

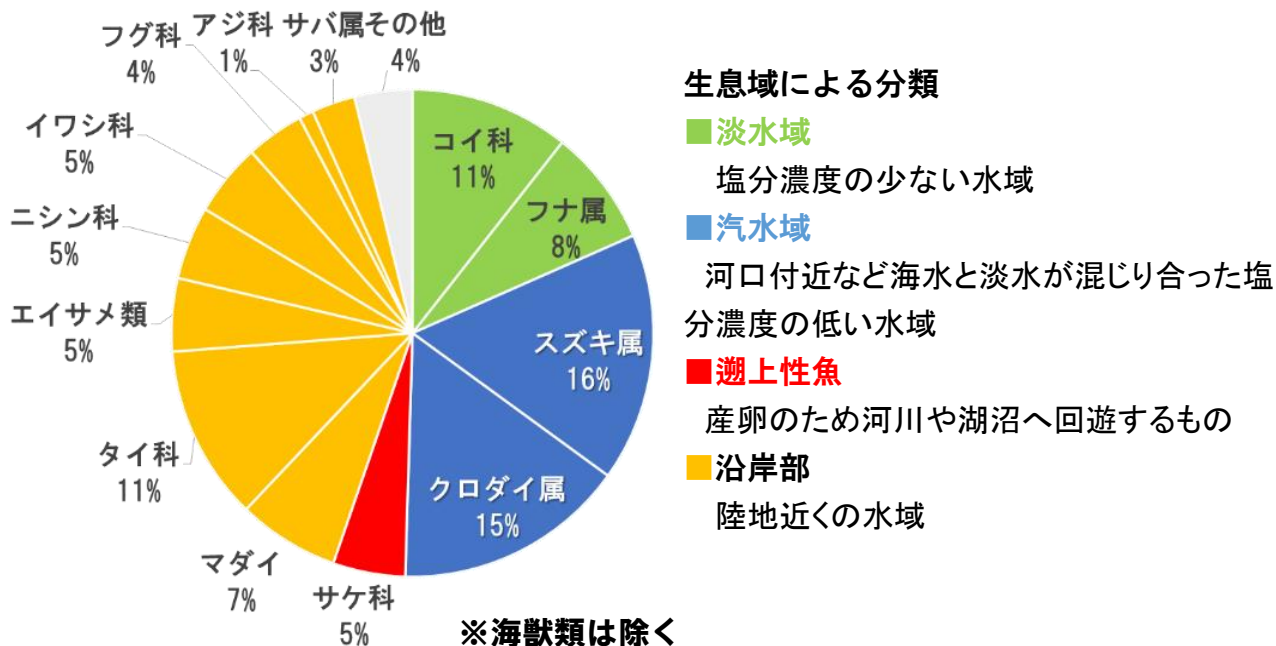


さまざまな遺物を細かく種別します。

このようにしてみつかった様々な細かい遺物たち。

今回のテーマである「お魚」について、どのような種類がみつかったのでしょうか？

下のグラフには魚の種類を分類ごとに示してあります。このデータからは、小竹人が海と川、両方の魚を利用していたことがよくわかります。



おもな分類	おもな魚
コイ科	コイ フナ ウグイ
フナ属	ギンプナ キンプナ
スズキ属	スズキ ヒラスズキ
クロダイ属	クロダイ チヌ
サケ科	サケ アマゴ イワナ
タイ科	マダイ チダイ
エイサメ類	ネズミザメ アオザメ トビエイ アカエイ
ニシン科	ニシン マイワシ コノシロ
イワシ科	カタクチイワシ
フグ科	マフグ クサフグ トラフグ
アジ科	マアジ カンパチ ブリ
サバ属	マサバ ゴマサバ
海獣類	カマイルカ ハナゴンドウ ハンドウイルカ

上の表には主な種類を挙げていますが、魚の種類の特定については残りの良い骨、大型の骨が優勢になる傾向もあり、これがすべてとは言いきれません。土壌を洗って多数みつかった資料にはフナ属の咽頭骨やタイ科の歯、アジ科の稜鱗（ぜいご）やトビエイ科の尾棘など微細かつ特徴的な部位も多く含まれますが、一方で骨に目立った特徴がない資料については、特定できぬまま埋もれている可能性もあると考えられます。

魚の組成から、小竹人の漁撈活動はおもに近隣中心に行われていたことがわかりますが、小竹貝塚の立地はシジミをはじめとする多種類の「海川の幸」がギュギュっと集まる理想的な環境だったのかもしれない。（町田尚美）